

## 「大学生と考えるSDGs アクション支援プロジェクト」 地域課題解決に向けた2つのベストアクションを決定 ～ゲスト審査員・山之内すず「同世代として誇りに思います」～



＜ベストアクション選出チーム＞  
チーム名：北九州市の課題を食で解決!!

＜ベストアクション選出チーム＞  
チーム名：+mirai

＜ポスターセッションの様子＞

JCOM 株式会社(J:COM、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岩木 陽一)は、次世代のチャレンジ支援の一環として、全国の大学生から“これから始めたい・もっと広めたい、地域課題の解決に取り組むアクション”を募集し、J:COM が実行サポートする「大学生と考える SDGs アクション支援プロジェクト」を実施しています。11月4日(月・休)に J:COM 本社で、一次選考を通過した 12 チームによるポスターセッションを行い、地域課題解決や事業創造の専門家と、ゲスト審査員として山之内すずさんをお招きし、J:COM 社員と共に審査を行いベストアクションを決定しました。ベストアクションに選ばれた 2 チームは、アイデアの実現に向けて J:COM が活動のサポートを行います。また、ベストアクションの実行状況は 2025 年 3 月にコミュニティチャンネル「J:COM チャンネル」で放送、J:COM 公式 YouTube で配信します。

### ■プロジェクトの背景

J:COM はこれまでコミュニティチャンネルなどを通じて、SDGs の達成に向けた情報発信や具体的な取り組みへの参画を呼びかけており、2023 年からは SDGs に関連した研究や取り組みを行っている大学生を地域情報番組内で取材し、『大学生と考える SDGs ウィーク』として特集を放送するなど、大学生の地域課題への取り組みを発信してきました。この度、さらに一歩踏み込んだ支援を行いたいという思いから、取り組みの発信に加え、大学生がすでに取り組んでいる活動の発展や、新たな取り組みにチャレンジするきっかけをつくるために「アクション支援プロジェクト」を実施しました。



＜山之内すずさんと参加学生の様子＞



＜最終選考参加者集合写真＞

## ■当日の様様

最終選考は、審査だけでなく新たなアイデアやコミュニティ創出の場となるよう、ポスターセッション形式で行い、参加した12チーム23名の大学生と、専門家、J:COMIによる意見交換を行いました。参加学生だけでなく、ゲスト審査員の山之内すずさんからも、参加した大学生にプロジェクト内容や、地域課題解決に向けた思いについて質問いただくなど、意見交換が活発に行われました。

当日の様子はYouTubeでもダイジェストでご覧いただけます。URL: <https://youtu.be/ofambb3Vc0o>

## ■ベストアクション選出チーム

### <チーム名>

チーム+mirai



### <アクション内容>

アクション名: のさりの書

対象地域: 熊本県天草市

「のさりの書」\*は天草を訪れた旅人が、出会った人や心が動いたものを絵葉書に綴り、その絵葉書を次の旅人が世界に1つの観光本として携えることで天草と素敵な出会いをしてもらいたいという内容です。この活動を通して旅人と地域の人がつながり、関係人口を増やし、地域通貨の活用などを通じて地域経済を活性化させることを目指しています。

\*「のさり」とは「良いことも、悪いことも天からの授かりもの」という意味です。

### <チームコメント>

私たちは、地域課題が顕著に現れている地方を創生することは日本の未来を明るくすることに繋がるのではないかと考えています。

そこで私たちの地元である熊本に、実際に訪れた人だけがわかる魅力を伝えるところから始めようと思いました。具体的には自分の心が動いたものを絵葉書に綴り観光本を作ってもらい、次に訪れた人が前の人の思い出を観光本として知ること、素敵な体験の後押しをする「のさりの書」をはじめました。

最終選考会のために短い時間の中で1番に伝えたい内容を、チーム9人全員で話し合いながら決めました。これまでにやってきたことに加えて、熊本の魅力を全国で発信できるよう、この取り組みを広めることから始めていきます。

### <チーム名>

北九州市の課題を食で解決！！



### <アクション内容>

アクション名: 竹を食べる?! 北九州市の空の玄関の名物お土産の提案

対象地域: 福岡県北九州市

北九州市で問題となっている放置された竹林による竹害を解決するために竹を原料とした商品を開発し、北九州市の代表となるお土産を販売するという内容です。竹炭の効能を活かし、地域を象徴する味を開発するなどの工夫を施すことで、地域に根付くお土産にすることを目指しています。

### <チームコメント>

北九州市の地域課題である竹害を解決したい、北九州市に根付くお土産作りをしたいという2つの思いから、竹炭を利用した「真っ黒なかりんとう」を作ること考えました。

最終選考会に向けて、簡潔でわかりやすいポスターを作るため、改善や工夫を行いながら準備を進め挑みました。今後の活動として、「真っ黒なかりんとう」を商品化し、全国の皆さまに北九州市のお土産としてお届けしたいです。商品化に向けて地元企業に声掛けを行い、実現に向けて具体的な施策を考えていきます。

## ■審査員評価

### ・中央大学 田中洋 名誉教授

今回、初めて審査員という立場で学生さんたちのご提案を見せていただきました。何より、どの案も熱意をもって考えられ、さまざまな試行の結果として提案されている点を評価したいと思います。また地域の課題に正面から向き合っている点も印象深くお聞きしました。これからのことを考えて、私からアドバイス申し上げたいと思います。

1)それぞれの課題の背景とその課題が発生した理由を深く掘り下げるとなお良いと思いました。課題の発生理由がわからないと解決は難しいからです。

2)アイデアをたくさん出してそこから、スクリーニングすることを考えていただければと思いました。少なくとも100のアイデアを出してそこから選んでいくくらいの意気込みがほしいです。アイデアは数勝負のところがあるからです。

私が期待している提案とは、単に地域の人を励ますだけではなく、地域の人々の自発的な活動を促し、そこにあらたな価値を産んでいくような活動です。

さまざまな視点を意識していただき、今後も優れたアイデアを考えていただきたいと期待しています。

### ・多摩美術大学 佐藤達郎 教授

東京一極集中から脱して、地域活性化を加速させるべき。これに反対する人は、ほぼ皆無かと思えます。しかしながら、実際はそう簡単ではない。1718ある市町村のうち大半の1400ほどの自治体は、人口減に瀕しています。そんな中、地域にビジネスの拠点を持つJ:COMがこうしたコンテストを行うことの意義は、大きいと感じます。学生さん達それぞれが、一生懸命に考えた企画は、どれも魅力的でした。受賞作と他を分けたポイントは、僕の視点からすると、解決策に独自のアイデアがあったかどうか？です。調査や分析はもちろん重要ですが、“アイデアのある解決策”により重点を置いてトライして欲しいと感じました。

## ■ゲスト審査員 山之内すずさんコメント



今日は学生の皆さんから想像もしなかったようなアイデアがたくさん出てきてすごくいい刺激になりました。これからいろんな問題に取り組んでいくと思いますが、同世代として皆さんのような方がいることを誇りに思います。これから何十年と長い年月を生きていく、若い世代が始めることに意味があると思いますし、私たちの世代だからこそ持っている危機感がこのようなアイデアに繋がっていると感じました。皆さんのような取り組みを進めている若い世代から刺激を受ける人はたくさんいると思うので、これからの日本をよろしく願います！

<審査中の山之内すずさん>

J:COMはこのプロジェクトを通して未来を担う若い世代とともに、SDGsの実現に向けたさらなるアクションを共創し、地域課題の解決と地域社会の活性化に貢献してまいります。

## 参考情報

### ■J:COMチャンネルでの放送について

企画名	『(仮)大学生と考えるSDGs アクション支援プロジェクト』
概要	「大学生と考えるSDGs アクション支援プロジェクト」の審査、選考の様様やベストアクションに選ばれた学生の取り組みの様子を描く。
放送日	2025年3月予定
放送チャンネル	J:COMチャンネル(地デジ11ch、* 下関エリア12ch、熊本エリア10ch)
配信	YouTube
過去の特集番組	『大学生と考えるSDGs』 <a href="https://www2.myjcom.jp/special/jch/sdgs/#ancG">https://www2.myjcom.jp/special/jch/sdgs/#ancG</a>

※放送・配信は予告なく変更となる可能性があります。

### ■「大学生と考えるSDGs アクション支援プロジェクト」概要

プロジェクト名	「大学生と考えるSDGs アクション支援プロジェクト」	
募集テーマ	これから始めたい・もっと広めたい、地域課題の解決に取り組むアクション	
実施内容	最終選考でベストアクションに選ばれたアイデアに対し総額100万円相当のサポートを実施	
応募条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに関心があり、地域課題の解決にチャレンジしたい 大学生・短大生・専門学生・高等専門学校4.5年生 (エントリー時点で在学中であれば、年齢は不問)</li> <li>・応募単位:チーム(ゼミ/サークル/有志)または個人</li> <li>・居住地:日本国内</li> <li>・最終選考に対面で参加できること</li> <li>・2025年3月末までにJ:COMと共にアイデアの実行ができること</li> <li>・取材への協力ができること</li> </ul>	
プロジェクトサイト	<a href="https://www.jcom.co.jp/corporate/sustainability/community/co-creation">https://www.jcom.co.jp/corporate/sustainability/community/co-creation</a>	
選考基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“地域課題の解決”を目指す内容である</li> <li>・独自の視点やアイデアがある</li> <li>・実行の継続性がある</li> <li>・J:COMのサポートによりさらなる効果・発展が見込まれる</li> <li>・J:COMのマテリアリティ(重要課題)との関連性がある</li> </ul> ※マテリアリティは <a href="#">こちら</a>	
審査員 ※敬称略	中央大学 多摩美術大学 ゆるさとLabo (株式会社小田急エージェンシー) ゲスト審査員 JCOM株式会社	名誉教授 田中洋 教授 佐藤達郎 増田光一郎、田中咲 山之内すず サステナビリティ経営推進室 他

### ■山之内すず プロフィール

2001年10月3日 兵庫県神戸市生まれ。

2019年 AbemaTV の恋愛リアリティーショー「白雪とオオカミくんには騙されない♡」の出演をきっかけに芸能界デビュー。

SNS 総フォロワー数は110万人を超え、現在ではTVCM、地上波テレビ番組、更に女優として映像作品にも活動の幅を広げている。

## **J:COMのサステナビリティ**

J:COMでは、事業活動を通じたサステナビリティ経営を推進しています。お客様の豊かな「暮らし」を支える企業として、持続的な「地域社会」へ貢献を行い、その土台である「地球環境」と関わるすべての「人」を対象として、4つのマテリアリティと、さらに具体化した12のサブマテリアリティを2023年度に再設定しました。

### **<本事業と関連するマテリアリティ>**

**マテリアリティ:「安心安全で持続可能な地域社会への貢献」**

**サブマテリアリティ:「地域社会との共創」「次世代のチャレンジ支援」**



地域社会の持続的な成長のために、自治体・パートナーとともに交通・医療・教育などの地域における固有の課題を、DXを通じて解決していきます。また、全国65局にプロモーション専任担当である「地域プロデューサー」を配置し、地域活性化のための企画提案や、地域密着型のメディア「コミュニティチャンネル」等でのきめ細やかな情報発信を行い、サステナブルな地域社会を創造します。

### **「J:COMチャンネル」について**

「J:COMチャンネル」は、地域のイベントや行政情報、安全・安心に役立つ防災情報など地域に根差したコンテンツ満載のオリジナルチャンネルです。地域情報番組『ジモトピックス』や『ジモトピックス・プラス』『LIVEニュース』を通じて行政の動きや街の出来事を取り上げ、地域の今を伝えます。また台風や地震などの災害時には地域に必要な情報を即座に発信します。その他、地域イベント・スポーツ大会の生中継など徹底的に地域にこだわったチャンネルです。(チャンネル番号:全て地上デジタル 札幌・仙台・関東・関西・福岡エリア:11ch、下関エリア:12ch、熊本エリア:10ch)

### **J:COMグループのSDGsへの取り組みについて <https://www.jcom.co.jp/corporate/csr/sdgs/>**

J:COMは、SDGs達成のための取り組みを推進するため、国連が世界の報道機関に協力を呼びかける「SDGメディア・コンパクト」に加盟しています。J:COMはグループ全体でSDGsの17の課題解決に向けた取り組みを進めていきます。

### **JCOM株式会社について <[www.jcom.co.jp/](http://www.jcom.co.jp/)>**

JCOM株式会社(ブランド名J:COM、本社:東京都千代田区)は、1995年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの11社65局を通じて約572万世帯のお客様にケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電気、ホームIoT等のサービスを提供しています。ホームパス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約2,338万世帯です。番組供給事業においては、14の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IPマルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。

※世帯数は2024年9月末現在の数字です。